

# コロナで生産回帰 補助金競争率11倍 マスクや医薬品 【イブニングスクープ】

2020/9/8 18:00 (2020/9/9 5:11更新) | 日本経済新聞 電子版



アイリスオーヤマは国産マスクの本格生産に乗り出した

新型コロナウイルスでサプライチェーン（供給網）が混乱したことを受け、マスクや医薬品などを国内生産しようとする企業の動きが加速している。国内への生産回帰を支援する政府の補助金への応募が殺到。10月に採択予定の1600億円の競争率は11倍となった。中国など特定国に調達先を依存するリスクを実感した企業が生産拠点を分散するケースが目立つ。

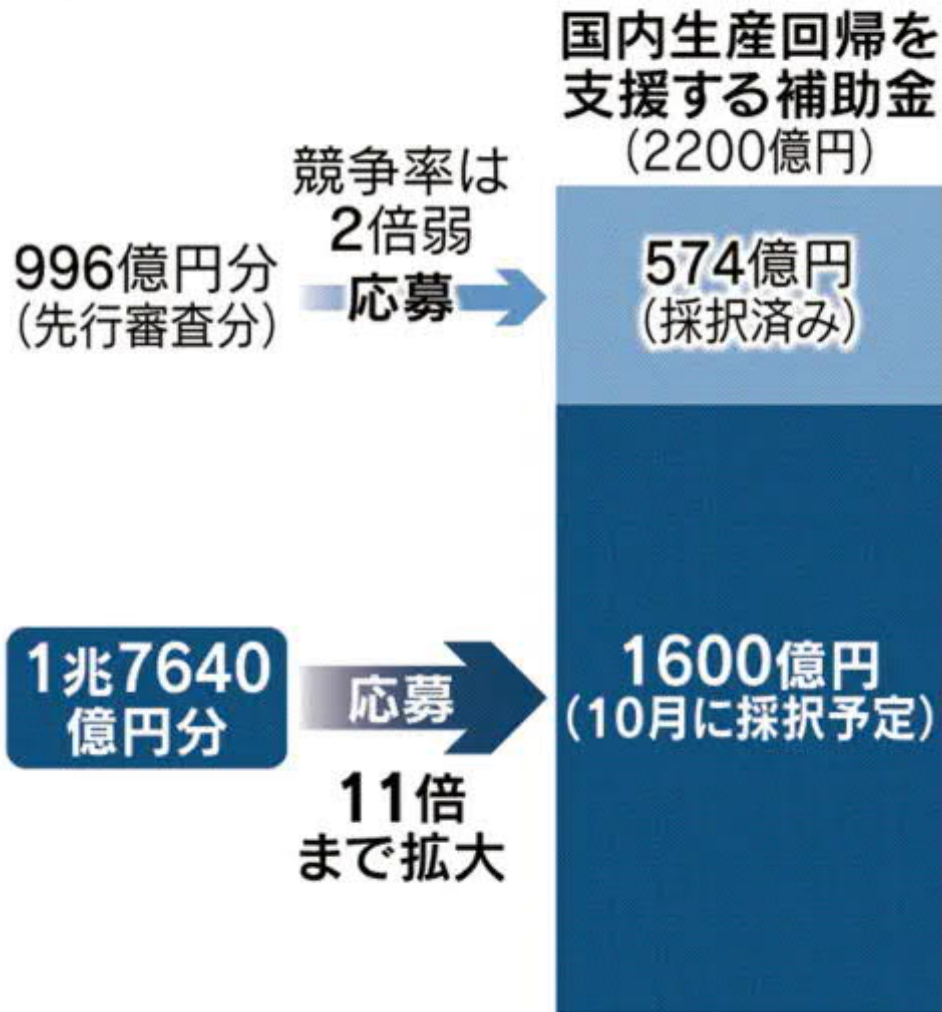
「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」は、コロナ対策として4月に成立した2020年度第1次補正予算に計2200億円が計上された。6月までの応募は90件（996億円分）あり、先行審査して57件（574億円分）を既に採択。競争率は2倍弱だった。

## イブニングスクープ

翌日の朝刊に掲載するホットな独自ニュースやコラムを平日の午後6時ごろに配信します。

残り約1600億円は7月に締め切った応募が1670件（約1兆7640億円）あり、予算額の11倍まで膨らんだ。外部有識者らの審査を経て10月に採択先を決める。補助金が積み増される予定は今のところないが、安倍晋三首相の後継を決める自民党総裁選でサプライチェーン対策に言及する候補もいる。

# サプライチェーンの混乱懸念から 補助金に応募殺到



補助金は(1)特定の国に生産拠点が集中(2)国民の健康に重要——のいずれかに該当する製品・素材が対象。採択されたものではマスクや医療品が多い。補助の上限は150億円で、国内拠点の整備費の一定割合を出す。

医薬品原薬メーカーのエースジャパン（山形県東根市）は先行審査で採択された企業のひとつ。これまでは中国を中心に原料を輸入していたが、21年夏にも山形県での工場建設に着工し、原料からの一貫生産を始める。環境規制などで中国からの調達が多くなっていたところ、コロナでその流れが強まった。

## 【関連記事】

[海外から生産回帰、6割が支持 上場企業3000人調査](#)

[「マスク生産は意外と難しい」アイリス大山社長の勝算](#)

アイリスオーヤマ（仙台市）は宮城県内でのマスク生産に補助金を活用した。中国の大連と蘇州の2工場に依存していた体制を見直した。ショーワグローブ（兵庫県姫路市）はゴム製の医療用使い捨て手袋を主にマレーシアから輸入して販売していたが、コロナ禍で調達が滞る

ようになった。補助金を使って香川県に新工場をつくる。23年春にも国内生産を始め、いまの輸入分の1割程度を賄う。

補助金が先行採択された主な企業	
製品	企業
マスク	シャープ、アイリス オーヤマ、白十字
ゴム手袋	ショーワグローブ、三 興化学工業
コロナ遺伝 子検出試薬	富士フィルム和光純 薬・秋田住友ベーク
医薬品	ニプロファーマ
医薬品原薬	エースジャパン
注射用部品	テルモ

過去にも危機に合わせ、国内拠点への投資を促す補助金があった。11年の東日本大震災の際の「国内立地推進補助金」は第1次募集で約750件の応募があり、約250件（約2000億円）を採択した。ただ、当時は円高の環境ということもあり、国内生産のコスト増が目立ち、一過性の取り組みで終わった。

今回のコロナ禍が震災時と異なるのは、米中対立などで経済安全保障の重要性が高まっている背景がある。早大の戸堂康之教授は「もともとコロナ前から保護主義的な政策が横行していたが、コロナショックはさらに増幅させることになった」と指摘する。採択された企業の担当者は「補助金がなくても国内生産は決めていた」と明かす。

今回の補助金の使い方をみると、海外拠点を閉じて国内に戻る単純な構図ではない。有事の調達混乱などを懸念し、生産拠点を分散する動きが目立つ。人件費の高まりなどで生産拠点としての中国の強みは薄れつつある。日本貿易振興機構（ジェトロ）が19年に日系企業に聞き取った調査では、日本の製造原価を100とした場合、中国は80、ベトナムは74だった。

アイリスオーヤマは国内だけでなく米国やフランス、韓国でもマスク生産に乗り出す。中国に集中していた生産拠点を世界各地に分散する戦略だ。戸堂教授は「中国への過度な依存を減らす対処法はより多様なグローバル化であるべきだ」としている。

